

図 17 丸亀市の植生自然度

第2節 歴史的環境

第1項 周辺の遺跡

旧石器時代の遺跡は丸亀平野の中央に多く存在しており、大窪池遺跡、仁池遺跡、三条黒島遺跡、郡家田代遺跡等が代表的なものである。

縄文時代の遺跡も丸亀平野中央部に多く見られ、石器製作が行われた形跡がある三条番ノ原遺跡、有舌尖頭器が出土した郡家原遺跡等がある。

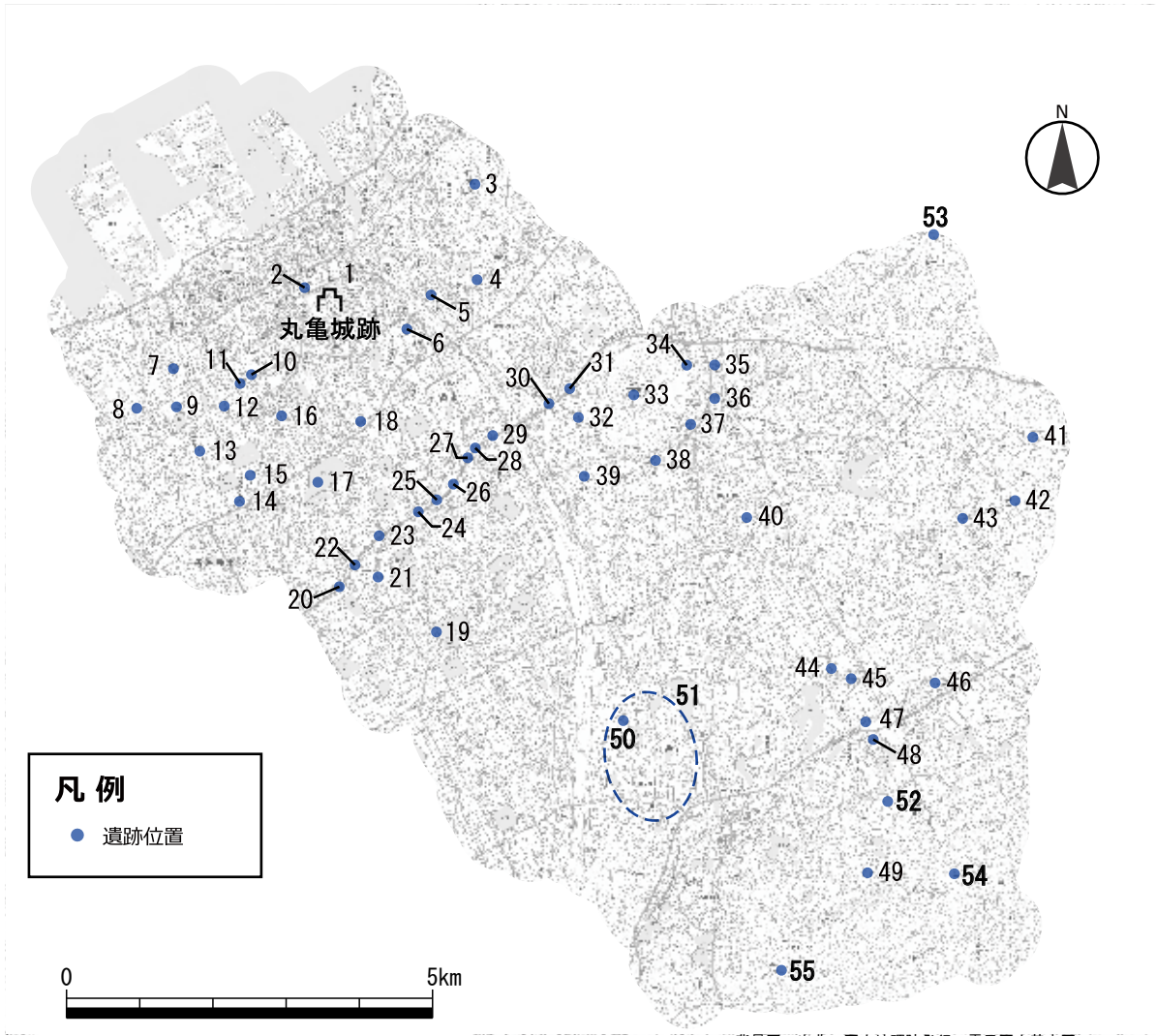
弥生時代では、環濠集落の中の池遺跡、集落遺跡である飯野山西麓遺跡、前期後半の方形周溝墓が多く検出された佐古川・窪田遺跡等が代表的なものである。

古墳時代には、丸亀平野の東部及び南西部の平野を取り囲む丘陵上に多くの前方後円墳が築かれる。平野の東縁から延びる城山・横山山塊上には、北から順に横山経塚古墳群、横峰古墳群、奥川内古墳群、陣の丸古墳群等が分布する。このうち横山経塚古墳群は少なくとも2基の前方後円墳を含む積石塚群である。陣の丸古墳群では2基、奥川内古墳群では1基の盛土による前方後円墳を含む。これらの前方後円墳はいずれも全長40m以下であり、立地等から古墳時代前期に遡ると考えられる。飯野山の北には青ノ山古墳群があり、古墳時代前期の前方後円墳で全長が54m以上ある吉岡神社古墳や古墳時代後期の横穴石室をもつ古墳群がある。飯野山の東側にも三ノ池古墳や古墳時代後期の横穴石室をもつ古墳群がみられる。横山から南に派生する丘陵の先端部には快天山古墳（国指定）が築かれている。全長98.8mの前方後円墳で古墳時代前期の古墳としては四国最大である。後円部は地山をけずり出し、上半部は盛土で成形され、最古級の刳抜式の石棺をもつ。栗熊低地を挟んで南方の高見峰山麓には小形前方後円墳を含む石塚山古墳群・平尾墳墓群等の複数の小規模墳・古墳群が分布する。これらの形成は古墳時代前期を中心としており、横山山塊の古墳群より形成開始が早そうで、やはり中期後半以降には継続しないようである。中期後半～後期前半の古墳群は、岡田台地で車塚古墳をはじめとする岡田万塚古墳群が形成され、後期後半段階には、宇間神社古墳等の横穴式石室墳が大高見峰北麓に築かれる。

古代には、雄大な山城である城山城跡（国史跡）、快天山古墳のある地域を治めていた綾氏ゆかりと考えられる法勲寺跡、塔心礎が残る宝幢寺跡や田村廃寺等の古代寺院が造営された。平野の中心部では南海道の道路跡が確認された地点があり、近くには那珂郡衙跡とみられる遺跡もある。丸亀平野は条里地割が良く残っており、津森位遺跡、郡家原遺跡、川西北・鍛冶屋遺跡等で条里に沿う溝などが検出されている。

中世には、大規模な土地開発が行われるようになり、郡家原遺跡、川西北・鍛冶屋遺跡等で集落跡、飯山北土居遺跡では有力者の館跡とみられる遺構が確認されている。また、中津城跡等の平地城館のほか、山地では市指定史跡の西長尾城跡、栗隈城跡等の城跡も築かれた。西長尾城跡は、長尾大隅守の居城であったが長宗我部元親の讃岐侵攻により、長宗我部氏の支配となり、豊臣秀吉の四国侵攻により廃城となった城である。一方、島しょ部では水運で活躍してきた塩飽水軍が秀吉の天下統一に組することによって、独自の歴史を辿ることとなる。

近世に入ると、豊臣秀吉の家臣であった生駒親正が、西讃岐の拠点として慶長2年（1597）から5年がかりで完成させたのが丸亀城である。その後、元和元年（1615）の一国一城令により廃城となるが、寛永18年（1641）に西讃岐の領主となった山崎家治により再築された。築城とともに城下町が形成され、丸亀は西讃岐の政治、経済、文化、交通の拠点となった。



背景図 出典：国土地理院発行 電子国土基本図

- | | | |
|---------------|--------------|-------------|
| 1 丸亀城跡 | 19 宝幢寺跡 | 37 東坂元秋常遺跡 |
| 2 丸亀城跡（大手町地区） | 20 三条番ノ原遺跡 | 38 飯山北土居遺跡 |
| 3 青ノ山古墳群 | 21 三条中村遺跡 | 39 西坂元内板遺跡 |
| 4 吉岡神社古墳 | 22 三条黒島遺跡 | 40 法勲寺跡 |
| 5 青ノ山城跡 | 23 郡家原遺跡 | 41 横峰古墳群 |
| 6 高津邑城跡 | 24 郡家大林上遺跡 | 42 横山経塚古墳群 |
| 7 中津城跡 | 25 郡家田代遺跡 | 43 陣の丸古墳群 |
| 8 中津兵庫遺跡 | 26 川西北原遺跡 | 44 行末西遺跡 |
| 9 道下遺跡 | 27 川西北・七条Ⅰ遺跡 | 45 行末遺跡 |
| 10 津森位遺跡 | 28 川西北・七条Ⅱ遺跡 | 46 快天山古墳 |
| 11 今津中原遺跡 | 29 川西北・鍛冶屋遺跡 | 47 佐古川・窪田遺跡 |
| 12 新田橋本遺跡 | 30 飯野東二瓦礫遺跡 | 48 石塚山墳墓群 |
| 13 中の池遺跡 | 31 飯野東分山碕南古墳 | 49 平尾墳墓群 |
| 14 平池南遺跡 | 32 飯野山西麓遺跡 | 50 車塚古墳 |
| 15 平池東遺跡 | 33 飯野山山頂遺跡 | 51 岡田万塚古墳群 |
| 16 田村廃寺跡 | 34 三の池古墳 | 52 宇間神社古墳 |
| 17 田村遺跡 | 35 東坂元三ノ池遺跡 | 53 城山 |
| 18 柞原西村遺跡 | 36 東坂元北岡遺跡 | 54 栗隈城跡 |
| | | 55 西長尾城跡 |

図 18 丸亀市周辺の遺跡位置図

特に江戸時代後期には「こんぴらさん」の名で知られる金刀比羅宮へ参詣する人々の上陸地として繁栄した。

明治時代に入ると丸亀城跡には陸軍歩兵第 12 連隊が配置され、丸亀は軍都として発展した。その頃大手先の一番丁から四番丁は「三ノ丸」と呼ばれていた。終戦まで軍の施設が置かれ、戦後は、公共施設や学校が建設された。

第3節 社会的環境

第1項 人口・世帯数

丸亀市の人口は、平成 23 年（2011）で 110,658 人、平成 24 年（2012）は 110,711 人、平成 25 年（2013）は 110,495 人、平成 26 年（2014）は 110,416 人、平成 27 年（2015）は 110,063 人、平成 28 年（2016）は 110,048 人、平成 29 年（2017）は 110,023 人、平成 30 年（2018）は 109,551 人、令和元年（2019）は 109,338 人で、平成 25 年（2013）以降は僅かずつながら減少傾向にある。（各年 10 月 1 日常住人口 資料：市行政管理課）

平成 30 年（2018）の国籍別外国人登録者数は 1,911 人で、内訳は中国 838 人、フィリピン 327 人、ペルー 282 人、韓国・朝鮮 86 人、インドネシア 55 人、ブラジル 53 人、米国 16 人、その他 254 人であり、中国が最も多い。

第2項 公園緑地

丸亀市の公園緑地は、市民 1 人当たりの面積で 36.2㎡であり、香川県の目標水準である 1 人当たり 25㎡を大きく上回っている。しかしながら、これは、風致公園等が 1 人当たり、31.1㎡と広いためであり、身近な公園である街区公園・近隣公園（住区基幹公園）及び運動公園（都市基幹公園）は 1 人当たり 4.8㎡と少ない。旧市内の公園緑地は JR 丸亀駅、県道高松丸亀線、土器川周辺に分布しており、代表的なものとしては、丸亀城跡を中心とした歴史公園である亀山公園、丸亀市総合運動公園、「残したい香川の水環境 50 選」に認定された土器川生物公園等がある。丸亀市綾歌町には、市内で最も面積が広い綾歌森林公園があり、丸亀市飯山町には水環境整備事業の一環として整備された楠見池親水公園、水辺の楽校公園、丸亀市飯山総合運動公園等がある。そのほか、丸亀城外堀跡の外濠緑道公園や、後期古墳が残る青ノ山墓地公園等がある。

表 3 公園緑地一覧

番号	名称	面積 (ha)	種別	所在地	備考
①	綾歌森林公園	249.83	風致公園	綾歌町岡田上	西長尾城跡を含む
②	丸亀市総合運動公園	27.80	運動公園	新田町	
③	土器川公園（県）	23.35	都市緑地	川西町南	
④	土器川河川公園	6.60	都市緑地	土器町東	
⑤	水辺の楽校公園	2.50	都市緑地	飯山町西坂元	
⑥	綾歌土器川公園	1.78	都市緑地	綾歌町岡田西	
⑦	楠見池親水公園	21.80	風致公園	飯山町東坂元	
⑧	亀山公園	20.48	歴史公園	一番丁	丸亀城跡
⑨	土器川生物公園	7.99	都市緑地	垂水町	